

受賞のポイント

- POINT 1 デジタル人材に必要な知識をカリキュラムとして組み、大学生に提供
- POINT 2 デジタルツールやデータ活用をしたいと考えている企業のDXを支援
- POINT 3 1年余りで地元企業5社以上のDXプロジェクト支援に成功



大学生向けにデータ活用の勉強会を実施



学生と共に課題の解決策を検討

会社概要

商号：株式会社ミヤックス  
 設立：1948年9月  
 従業員数：33名  
 事業内容：宮城県内を中心に、遊具や学校や幼稚園といった施設の設計・製造から販売を行うほか、各種デジタルサービスも展開。

お問い合わせ先

株式会社ミヤックス

〒981-3204  
 宮城県仙台市泉区寺岡1-1-3  
 TEL：022-777-5888  
 FAX：022-777-6888  
 E-mail：info@miyax.jp  
 URL：https://www.miyax.jp/



TOHOKU DX  
 支援部門  
 優秀賞  
 (東経連会長賞)

受賞件名

受賞者

株式会社ミヤックス

老舗企業が取り組むビジネスを爆速で成長させるための三方よしの産学連携DX支援

担当者

高橋 蔵人氏  
 星川 智洋氏

地元企業が挑む  
 DX支援による地域活性化

デジタル人材を育成し  
 地元企業のDXを支援

受賞理由

- データ科学に興味のある大学生にデータ分析から活用までをレクチャー
- 地元企業の課題の解決策を、大学生と共にデータを元に考え提案



1948年、宮城県で創業。オフィス事業、遊具事業、デジタル事業部の3事業を展開。「三方よし」の理念を遵守し、社会の発展、特に地域社会の発展のため貢献活動をしている。デジタル事業部の立ち上げに伴い、DXカンパニーへの変革を遂げている。



ミヤックス本社前で

第3の事業として  
 デジタル事業部を設立

仙台市に本社を置く株式会社ミヤックス。オフィス事業、遊具事業の2つを事業の柱にしています。2019年よりAI・イノベーション事業部を設立。2021

年にはMIYAX DIGITALと名称を変更し、AIに限らず、様々なデジタルコンテンツを取り扱い、地元企業の課題解決に取り組んできました。その一方で同社は、地元企業におけるDXの取り組みが進んでいないことに、地域としての課題を感じていました。そこで、

三方よしの精神で、  
 共に明るい未来を

この仕組みをつくり上げたのは、代表取締役CEOの高橋蔵人氏。

データ活用は企業にとっても、次世代の人材にとっても必須だといえます。

実際、宮城県内にある食品小売業の導入事例では、過去の商品販売データを元にAIによる機械学習で、1週間後の販売量予測を行い、課題となっていた食品ロスが、従来比で50%以上削減できたといえます。

こういった取り組みが実を結び、事業開始から1年余りで5社以上のDXプロジェクト支援を実現しました。

実際にこのプロジェクトに参加した企業からはデータ活用を進めていくことで、収益の向上や、属人的な業務を解消する道筋が見えた、という声も聞かれ、期待を感じているといえます。

今後同社では、デジタルを活用することで2つの基幹事業の成長を進めるほか、近江商人の「三方よし」を遵守し、社会課題の解決に取り組んでいきます。

この課題を解決すべく2つの取り組みを始めました。

データ科学を学ぶ場を提供し  
 企業の課題を学生と解決する

1つは、学生に対しデータ科学を学ぶ機会を提供。

東北大学をはじめ、仙台にいる大学生を対象に、RPAやBI、AIをノーコード（コードを書かずにアプリやシステムの開発が可能）で使用できるソフトの使い方をレクチャー。

さらにデータ分析によって何ができるのか、どんな課題が見えてくるのか、2週間に1回の

ペースで勉強会を開き、学びの場を提供したのです。

もう1つが地元企業のDX支援。デジタル化やデータ活用をしたいと思っているものの、実際どのように導入したらいいかわからない企業に対し、データの活用方法を知ってもらうため、データ科学を学んだ大学生と共に企業課題に取り組んでいったのです。企業は売上や客数といった、事業のリアルなデータを提供。学生は現場の状況がより具体的にイメージでき、実学実践の場に。双方にとってメリットのある取り組みとなりました。